

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23593394

研究課題名(和文) 保健師学生を対象アセスメント能力の向上を意図した視聴覚教材の開発

研究課題名(英文) Development of Audiovisual Teaching Materials Intended to Improve the Assessment Ability of Students in the Baccalaureate Education for Public Health Nurses

研究代表者

塩見 美抄 (SHIOMI, MISA)

兵庫県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：10362766

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、保健師基礎教育課程の学生を対象に、目に見えない保健師のアセスメント技術を可視化して教授するための視聴覚教材を開発し、その効果を検証することである。

研究組織を個人・家族のアセスメント班と地域のアセスメント班の2班構成にし、各班で教材の開発・検証を行った。教材は、関連文献の検討結果と地域看護担当教員や熟練保健師から収集した意見をもとに、研究班で討議を重ねて開発した。検証の結果、開発した教材により、学生は保健師のアセスメントを具体的にイメージ化することができ、アセスメント能力のみでなく演習全体の習得度が向上していることがわかった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop and verify the effects of audiovisual teaching materials to visualize and teach the intangible assessment techniques of public health nurses for students in the baccalaureate education for public health nurses.

The study organization was divided into two teams, one for individual and family assessment and the other for community assessment, each of which carried out the development and verification of teaching materials. The teaching materials were developed through discussions in the study teams on the basis of results from a review of relevant literature and opinions collected from university teachers of community health nursing and experienced public health nurses. The results of verification demonstrated that the developed materials had improved not only students' assessment ability but their acquisition levels throughout the public health nursing practice.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：保健師基礎教育 アセスメント 教材開発 地域看護学教育

1. 研究開始当初の背景

平成 20 年に厚生労働省より示された「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」において、学生は卒業時に個人・家族や集団・地域の健康課題のアセスメントを、ひとりでもしくは指導のもとで実施できるレベルまで、到達することが求められている。しかし、多くの学生は、そのレベルまで到達できていない現状が指摘されており、このことが卒業実践を行う上での困難感につながっている。

学生にとって、目に見えない保健師の対象アセスメント技術を、テキストや講義から理解することは容易でない。学生がアセスメント技術を理解し習得していくためには、学外実習で実際の保健師活動を題材にして学生に学ばせるのみでなく、学内の講義や演習においてその技術を可視化して伝える必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、保健師基礎教育課程の学生の、地域における対象アセスメント能力を向上させることを意図した視聴覚教材を開発し、その効果を検証することである。

本研究で開発する視聴覚教材は、家庭訪問場面における個人・家族のアセスメントと、地域のアセスメントを可視化するものである。これが保健師の基礎教育で活用されることにより、学生の卒業時のアセスメント技術レベルの向上が図れる。

なお、本研究における「アセスメント」とは、地域看護活動の方向性や目標を明確にすることを目的とした保健師の思考および行為と定義する。

3. 研究の方法

研究組織を個人・家族のアセスメント班と地域のアセスメント班の 2 班構成にし、各班で教材の開発と検証をおこなった。以下、各班の研究について説明する。

(1)個人・家族のアセスメント班

個人・家族のアセスメント班では、家庭訪問場面を題材にした DVD 教材の開発と検証に取り組んだ。教材は、家庭訪問演習場面で使用することを想定したものであり、文献検討と研究班での討議により、家庭訪問演習における学習目標の明確化と、DVD 教材との対応について、検討をはかった。

その後、学習目標を意識しながら、教材に必要な内容を明らかにし、教材の事例・場面設定やシナリオ案を検討した。事例やシナリオの案は、地域看護学担当教員や保健師が所属する研究会において提示し、修正・補足すべき点等の意見を収集した。得られた意見を元に研究班で意見交換を繰り返し、最終的な事例・シナリオを完成させ、DVD を制作した。教材検討期間は、2011 年 7 月～2012 年 10 月であり、期間中の研究会議の開催は 5

回であった。会議以外にも研究班員間の個別の打ち合わせ会、Eメールによる意見交換をおこなった。

DVD 教材の検証は、2 大学の保健師基礎教育課程の学生を対象におこなった。

A 大学では、看護学部 3 年次生全員約 220 名を対象とし、平成 24 年度と 25 年度の 2 年間で検証した。平成 24 年度は、DVD の制作段階であったため、DVD と同じ事例設定で DVD を使用せずに演習を実施し、演習終了時点で学生に演習目標到達度の自己評価票を無記名で記入してもらった。評価票は、認知、情意、精神運動の 3 領域で構成されており、演習の学習目標に対応させて独自に作成したものであった。設問は、計 20 問 100 点満点であり、各問の配点を 5 点とし小数第 1 位までの数値で自己採点してもらった。評価票は、全員回収した後、研究協力の同意欄にチェックがある者の評価票を研究データとして用いた。DVD の完成後、対象となった学生には、研究への同意の有無に関係なく DVD 視聴の機会を設けた。その際、再度評価票への記入をしてもらい、研究協力の同意が得られた学生について、DVD 視聴前後での演習目標到達度の差を t 検定により比較検証した。平成 25 年度は家庭訪問演習の中で DVD を使用して教育を実施した。なお、24 年度の家家庭訪問演習も、DVD の使用以外の内容や展開はすべて 25 年度と同一であった。演習終了時点で、学生に演習目標到達度の自己評価票を無記名で記入してもらい、研究協力の同意欄にチェックのある者の評価票を研究データとして用いた。演習において DVD を使用していない 24 年度の学生と、DVD を使用した 25 年度の学生の、演習終了時点での演習目標到達度の差を独立サンプルの t 検定により比較検証した。いずれも、分析には、PASW Ver.18 を用いた。

B 大学では、看護学部 2 年次学生約 85 名を対象に、平成 24 年度の地域看護特性論の中での「家庭訪問講義」において、視聴覚教材を視聴する機会を設定した。履修学生は全員、視聴覚教材視聴前と後の 2 回、評価票を用いて自己評価を行い、視聴前後の評価結果を t 検定により比較検証をおこなった。評価票は A 大学で用いたものを基本とし、演習を通して到達する項目を除く 12 項目とした。評価票の回収方法、分析方法は A 大学と同じであった。

倫理的配慮として、評価票はすべて無記名とし、協力者が特定されないようにした。研究協力・拒否の自由や成績には影響しないことの保証等については、文書及び口頭で説明をした。本研究は、研究者の所属大学の倫理審査委員会による承認を受け、学生の所属学部長の許可を得て行った。

さらに、DVD 教材の適切性や教育への活用可能性、教授用ガイドに必要な内容について、保健師基礎教育及び新人教育の担当者からアンケート形式による意見を収集し、結果

を受けて教授用ガイドを作成した。

(2)地域のアセスメント班

地域のアセスメント班では、地域アセスメント教材の開発にあたり、まず研究者らが所属する大学地域看護学教員有志による勉強会において、「地区診断・地域診断の教授方法」をテーマにグループワークをおこない、教員が重視する地区診断の教授内容を分析した。また、国内文献レビューによる地区診断教育プログラムの検討をおこなった。それらを元に、教材の骨子を明確にした。明らかになった教材の骨子は、保健師が出会った事例の検討を通して、地区診断に必要な情報とその情報を得るための方法を考えさせることから始める、地区活動情報に複数の個別事例を含める、ヘルスニーズ分析のための思考を導くワークシート等の工夫を組み込む、実習の最後に実際に保健師がその後の活動をどのように展開したか提示するであり、個別事例に始まるワークブック形式の教材を開発することになった。

教材案については、教材で設定した地域に近似する自治体に勤務する熟練保健師を対象に、個別インタビューを実施し、教材の妥当性や適切性の意見を収集した。また、同地の保健師を対象にしたワークショップを開催し、グループインタビューで教材への意見を収集した。さらに、1大学の4年次学生を対象に地域アセスメントワークショップを開催し、教材を用いた地域アセスメントのワークを経験してもらった後、教材への意見を収集した。以上の意見収集を受け、教材案の再検討をはかり、個別事例への気づきから始まる地域アセスメント教材を開発した。

倫理的配慮として、協力者には研究協力・拒否の自由の保証等について、文書及び口頭で説明をした。また、協力者が学生の場合には、成績等への影響が生じないことを約束し、日程やインタビューの設定に配慮した。本研究は、研究者の所属大学の倫理審査委員会による承認を受けておこなった。

4. 研究成果

(1)個人・家族のアセスメント班

双胎・低出生体重児とその母への初回訪問場面における保健師のアセスメントを描いた、DVD教材「見てわかる保健師のアセスメントと支援-家庭訪問-」を制作・公表することができた。

A大学における教材の検証に結果、対象学生数は、24年度が105名、25年度が112名であった。24年度の演習終了時の評価票の有効回答数は93件(88.6%)、DVD視聴後の評価票の有効回答数は67件(63.8%)、25年度の演習終了時の評価票の有効回答数は101件(90.2%)であった。

24年度にDVD視聴前後の両方に回答が得られた67件について、演習目標到達度の差を対応サンプルのt検定により比較した結果、

演習目標到達度は、評価票のすべての設問において、DVD視聴後が有意に上昇していた($p < 0.001$)。平均値の差が最も大きかった設問は、「模擬事例のニーズをアセスメントする方法を、具体的に計画できる」であり、0.52点の差があった。次に差が大きかった設問は、「模擬事例への家庭訪問場面において必要な看護技術を展開できる。」で、0.50点の差があった。逆に、最も差が少なかった設問は、「模擬事例が利用しうる制度・サービスを説明できる。」で0.25点の差であった。

24年度と25年度の演習終了時の評価票有効回答者について、演習目標到達度の差を独立サンプルのt検定により比較した結果、評価票合計点の24年度の平均値は100点満点中56.85点であったのに対し、25年度は67.52点と有意に上昇していた($p < 0.001$)。認知、情意、精神運動の各領域の合計点の平均値もすべて、25年度が24年度よりも有意に上昇していた($p < 0.001$)。各設問の評価点の平均値も、25年度が24年度よりも20問すべてにおいて、有意に上昇していた($p < 0.01$)。平均値の差が最も大きかった設問は、「保健師が行う家庭訪問の一般的な目的・目標が述べられる」であり、0.65点の差があった。次いで差が大きかった設問は、順に「模擬事例への家庭訪問場面において地域看護職者としての基本的な姿勢・態度を実践できる」(0.63点差)、「模擬事例が利用しうる制度・サービスを説明できる」(0.62点差)、「模擬事例を通して、事例を含む人々の健康・生活のイメージを膨らませることができる」(0.61点差)であった。一方、最も差が少なかった設問は、「個人や家族を対象とした活動から、集団・地域を対象とした活動へと発展させる支援のあり方を、確認できる」(0.36点差)であった。

B大学での教材の検証の結果、2クラス合計86人中78人(90.7%)の学生が、研究参加に同意し、評価票を記入した。そのうち教材視聴前後の比較が可能であった36人分(46.2%)を分析に用いた。対応サンプルのt検定の結果、全項目において、視聴覚教材視聴前より、視聴後の自己評価点数が上昇していた($p < 0.01$)。

以上より、開発したDVD教材は学生のアセスメント能力の向上のみでなく家庭訪問技術に関する学習到達度を全般的に高める効果があることがわかった。

一方、保健師基礎教育及び新人教育の担当者からの意見収集の結果、アンケートの回収数は35名(有効回答率53.8%)であった。DVDを視聴することでDVDのねらいであった「保健師が個人・家族のニーズをアセスメントする上で基本となる考え方や大事にすべき価値」が「よく伝わった」と回答したのは21名(60.0%)、「保健師が個人のニーズをアセスメントするための具体的な視点と方法」が「よく伝わった」と回答したのは18名(51.4%)、「保健師が個人・家族のニーズ

を見出すためのコミュニケーションの実際」が「よく伝わった」と回答したのは 22 名 (62.9%) であった。学生や新人保健師向けの教材の適切性について「大変適切であった」と回答したのは 12 名 (34.3%)、「まあ適切であった」と回答したのは 19 名 (54.3%) であった。その理由として「実際の家庭訪問は母子事例が多い(学生や新人保健師が会いやすい)」「目の前にある情報だけでなく、物事を想像・推察しなければよりよいケアができないことが伝わってきた」「保健師の意図していることが丁寧に解説されている」などが挙げられた。「あまり適切でない」と回答した理由として「事例設定(双胎)がやや難しい」が挙げられた。DVD の活用について 32 名 (91.4%) が、「活用したい」と回答した。その理由として、「視覚で伝えると学生の頭に残りやすい」「保健師の思考過程を具体的に理解できる」「訪問途中の地区把握は活用できる」「言語化されたもの以外の情報や想像することの大切さ、共感について盛り込まれていた」「実際に講義で使用し、学生の理解度が高かった」が挙げられた。「活用したいと思わない」と回答した理由は、「発育・発達などの具体的なアセスメント技術についての場面や説明がない」などが挙げられた。

以上より、DVD 教材の適切性が認められ、教育への活用可能性も高いことがわかった。

さらに、DVD の教授用ガイドに必要な内容についてアンケート調査を実施した結果を基に、教授用ガイドの項目を精選し、DVD 教材での学習を補うための教授用ガイドを作成・公表した。

(2)地域のアセスメント班

保健師が支援していた高齢者の死をきっかけに、地域の高齢者の実態を把握し、高齢者の介護予防の展開を検討する活動を想定した、ワークブック形式の地域アセスメント教材を開発・公表した。

教材を検証するため、保健師を対象とした個別インタビューや、ワークショップ後のグループインタビューを実施した。その結果、個別事例から始まる地域アセスメントの展開については、「事例から入っていくことで、イメージしやすい」「現場の保健師のスキルアップや、視野を広げる教材としても使えそう」との意見が得られた。事例および地区活動情報の設定に対しては、「A 氏の言語障害について障害の程度がわかる情報があればよい」など、事例の状態を具体的にイメージできる情報が必要との意見があった。また、きっかけとなった事例への支援の経過やその時の保健師の判断や根拠を明確にすべきとの意見もあった。きっかけとなった事例については、「自殺が衝撃的すぎる」との意見があった一方で、「家族と同居している高齢者に保健師が距離を置いてしまうこのような設定は現実を反映している」「家族と同居している高齢者の孤立や自殺も現実

に起こっている」といった意見もあり、現実起こり得る衝撃的な事例であるからこそ、学生が心を動かし、思考を展開することにつながると考えられた。この他、地区概況資料に追加すべき事項等や、地域での暮らしぶりについて学生がイメージできるための写真や絵などの必要性についての意見も得られた。

学生へのワークショップ後のグループインタビューの結果、教材について、「状況が具体的でわかりやすかった。」「楽しかった。」との肯定的な評価が得られた。学生は、ワークショップを通じて事例をきっかけに地区へと考えを発展させていく思考の大切さについても、気づきを得ていた。「これまでの講義・演習では、先に情報を整理することがあって、何のためにこの情報を調べているのか理解していなかった」「目的を持って情報収集をすることができ考えやすかった。」といったように、2 度と悲劇が起きないための保健師の活動の方向性を明確にするという目的にそった情報収集について、学生は理解できていた。事例の設定についても、「ショックが大きいだけに分かりやすい」との意見であった。改善を要する点としては、場面展開の時系列や提示されている情報がどこで誰が収集したものなのかがわかりにくく、混乱するといった意見が得られ、基礎教育課程の学生は、教材に記述されていることがすべてであるからこそ、明確で順を追った教材の作成が必要であることがわかった。

以上より、個別事例をきっかけに地域へと展開していくアセスメントを描いた本教材は、学生にとっても保健師にとってもわかりやすいものであることがわかった。

得られた意見を元に、修正版の地域アセスメント教材およびワークシートを作成した。今後は、学生のイメージ化を助けるような絵・写真等や、アセスメント後の活動展開の例示等を追加して、教材を改訂すると共に、教授用ガイドを作成し、教育関係者に広く普及を図る予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

牛尾裕子, 松下光子, 飯野理恵: 公衆衛生看護教育を担当する大学教員が「地区診断」の教育において重視していた教育内容. 日本地域看護学会誌, 16(3), 82-89, 2014 年 3 月. (査読有)

他、平成 26 年度に論文 3 件投稿予定

〔学会発表〕(計 7 件)

塩見美抄, 竹村和子, 井上清美, 田村須賀子, 小寺さやか, 伊藤郁恵: 保健師のアセスメントを可視化して伝える家庭訪問映像教

材使用による学生の演習目標到達度。第 17 回日本地域看護学会学術集会, 2014 年 8 月 2 日~3 日, 岡山コンベンションセンター(岡山市)。

竹村和子, 塩見美抄, 井上清美, 田村須賀子, 小寺さやか, 伊藤郁恵: 保健師のアセスメントを可視化して伝える家庭訪問映像教材に対する教育者の意見。第 17 回日本地域看護学会学術集会, 2014 年 8 月 2 日~3 日, 岡山コンベンションセンター(岡山市)。

小巻京子, 牛尾裕子, 松下光子, 飯野理恵, 嶋澤順子, 塩見美抄: 個から始まる地域アセスメント教材に対する保健師および学生の意見。第 17 回日本地域看護学会学術集会, 2014 年 8 月 2 日~3 日, 岡山コンベンションセンター(岡山市)。

塩見美抄, 井上清美, 田村須賀子, 小寺さやか, 伊藤郁恵, 牛尾裕子, 松下光子, 飯野理恵, 小巻京子: 家庭訪問における保健師のアセスメントを可視化する視聴覚教材に必要な内容の明確化。第 72 回日本公衆衛生学会総会, 2013 年 10 月 23 日~25 日, 三重県総合文化センター(三重県津市)。

伊藤郁恵, 塩見美抄, 井上清美, 田村須賀子, 小寺さやか, 牛尾裕子, 松下光子, 飯野理恵, 小巻京子: 保健師のアセスメントを可視化する家庭訪問視聴覚教材が保健師学生に及ぼす効果の検証。第 72 回日本公衆衛生学会総会, 2013 年 10 月 23 日~25 日, 三重県総合文化センター(三重県津市)。

牛尾裕子, 松下光子, 飯野理恵, 嶋澤順子, 小巻京子, 田村須賀子, 井上清美, 小寺さやか, 伊藤郁恵, 塩見美抄: 保健師のアセスメントを可視化する教材の開発~個から地域へ展開する地区診断教材~。第 72 回日本公衆衛生学会総会, 2013 年 10 月 23 日~25 日, 三重県総合文化センター(三重県津市)。

Yuko Ushio, Mitsuko Matsushita, Rie Iino, Misa Shiomi, Tomoko Miyashiba, Junko Shimasawa, Kyoko Komaki, et al.: Development of education materials for community health nursing diagnoses practices in classroom. The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars, Feb.21-23, 2013 (Bangkok, Thailand)。

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

総合研究報告書(冊子), 2014 年 3 月。

研究成果報告

<http://chiiki-cn.as.jp/research/>

DVD 教材「みてわかる保健師のアセスメントと支援 家庭訪問」

http://chiiki-cn.as.jp/teaching_material/

自由集会の開催

〔世話人〕塩見美抄, 井上清美, 田村須賀子
〔タイトル〕保健師のアセスメントを可視化する視聴覚教材を用いた基礎教育の提案

〔場所〕第 72 回日本公衆衛生学会総会, 2013 年 10 月, 三重県総合文化センター(三重県津市)。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

塩見 美抄 (SHIOMI MISA)

兵庫県立大学・看護学部・准教授

研究者番号: 10362766

(2) 研究分担者

牛尾 裕子 (USHIO YUKO)

兵庫県立大学・看護学部・准教授

研究者番号: 00275322

井上 清美 (INOUE KIYOMI)

神戸常磐大学・保健科学部・教授

研究者番号: 20511934

(3) 連携研究者

田村 須賀子 (TAMURA SUGAKO)

富山大学大学院・医学薬学研究部・教授

研究者番号: 50262514

松下 光子 (MATSUSHITA MITSUKO)

岐阜県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号: 60326113

小寺 さやか (KOTERA SAYAKA)

神戸大学大学院・保健学研究科・講師

研究者番号: 30509617

飯野 理恵 (IINO RIE)

千葉大学大学院・看護学研究科・助教

研究者番号: 40513958

嶋澤 順子 (SHIMASAWA JUNKO)

(平成 25 年度~)

東京慈恵会医科大学・医学部・教授

研究者番号: 00331348

小巻 京子 (KOMAKI KYOKO)

兵庫県立大学・看護学部・助教

研究者番号: 10632474

伊藤 郁恵 (ITO IKUE)

元兵庫県立大学・看護学部・助手

研究者番号: 90613191

竹村 和子 (TAKEMURA KAZUKO)

(平成 25 年度~)

兵庫県立大学・看護学部・助手

研究者番号: 30724736